

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09030060

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 水産資源の保護・増大	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	なまこ増養殖事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武漁業協同組合	関係課	#N/A	
事業指標	増養殖試験調査箇所		#N/A	
事業目標	試験調査箇所数 1箇所	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	天然なまこの資源増大を図るため、元稲府漁港内において増養殖用施設を設置し、親なまこ放流による天然育成環境等の試験調査を実施する。 ※種苗採取3年後、試験結果をもとに天然漁場移設 ○総事業費 8,000千円 ・保育用施設 3,900千円 ・調査費 3,100千円 ・用船料 300千円 ○財源内訳 ・自己財源 4,000千円 ・町補助金 4,000千円	<元稲府漁港内>① ・増養殖用施設の設定 (石詰礁 131基 カキ殻採苗器 12個) ・親なまこ放流 ・効果調査の実施 ○事業費 2,000千円 ・施設設置費 1,300千円 ・調査費 700千円 ○財源内訳 ・自己財源 1,000千円 ・町補助金 1,000千円	<元稲府漁港内>② ・増養殖用施設の設定 (石詰礁 131基 カキ殻採苗器 12個) ・親なまこ放流 ・効果調査の実施 ○事業費 2,000千円 ・施設設置費 1,300千円 ・調査費 700千円 ○財源内訳 ・自己財源 1,000千円 ・町補助金 1,000千円	<元稲府漁港内>③ ・増養殖用施設の設定 (石詰礁 131基 カキ殻採苗器 12個) ・親なまこ放流 ・効果調査の実施 ○事業費 2,000千円 ・施設設置費 1,300千円 ・調査費 700千円 ○財源内訳 ・自己財源 1,000千円 ・町補助金 1,000千円	・天然漁場事前調査 ・港内施設の天然漁場移設 ・港内試験効果の検証 ○事業費 1,000千円 ・移設費用 0千円 ・用船料 100千円 ・調査費 900千円 ○財源内訳 ・自己財源 500千円 ・町補助金 500千円	・天然漁場の生息調査 ○事業費 1,000千円 ・用船料 200千円 ・調査費 800千円 ○財源内訳 ・自己財源 500千円 ・町補助金 500千円	
	事業費(千円)	4,000	1,000	1,000	1,000	500	500
計 画 事 業 費	国庫支出金	0	0	0	0	0	
	道支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	4,000	1,000	1,000	1,000	500	500
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,700	800	900	0	0	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	
	道支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
一般財源	1,700	800	900	0	0	0	
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等) ・増養殖用施設 石詰礁 150基 カキ殻採苗器 12個 人口海藻 40基 ・親なまこ放流 400匹 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・増養殖用施設 石詰礁 150基 カキ殻採苗器 12個 人口海藻 40基 ・親なまこ放流 5,000匹 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	試験調査箇所数 1箇所	試験調査箇所数 1箇所	試験調査箇所数 1箇所	試験調査箇所数 1箇所	試験調査箇所数 1箇所
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	80%	90%	0%	0%	0%
		全体達成率	20%	43%	43%	43%	43%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	なまこ増養殖事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田和幸
		評価者 作成者 職氏名	産業振興課長補佐	安井雅憲

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	増養殖試験調査箇所								
【抱える課題やニーズは】	天然なまこが資源減少傾向にある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	増養殖サイクルを確立し、なまこ資源の増産を図る。	① 増養殖試験調査箇所	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成26年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1箇所</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1箇所</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成26年度	目標値	1箇所	実績値	1箇所	達成度	100.0%
目標年度	平成26年度										
目標値	1箇所										
実績値	1箇所										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	資源量及び生産額の増による、漁業経営の安定化を目指す。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成26年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成26年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成26年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	事業実施団体への助成	天然なまこの増養殖用施設設置及び育成環境の試験調査に対し助成金を支出した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	なまこは、海外における需要が高く、今後も輸出増が見込まれる反面、資源量は近年減少してきていることから、増養殖サイクルを確立するためにも、数年の期間を要する試験調査に対し、支援を行う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	元稲府漁港内に増養殖用施設を設置後、親なまこを放流し、施設での生息を確認することができた。※放卵・受精・着床を期待するが、幼生の個体は小さく確認は困難であるため、効果の検証は翌年となる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	雄武漁業組合で資材を自己製作するなど、事業実施にあたっては、極力費用を抑えるよう努力されている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業費の5割が自己財源により実施されている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
元稲府漁港の静穏域に増養殖用施設を設置し、親なまこを放流することができた。毎年試験結果による課題の洗い出しを行い、改善・実践し、効果ある試験実施となっている。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
増養殖用施設の試験調査を継続し、港内での結果が得られれば、天然漁場への移設を行い、増養殖サイクル確立による資源の増加を図る。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止